

わたしの好きな よりの

No.147

寄居町には緑に囲まれた素晴らしいサッカー場があるのをご存知ですか？ 場所は用土地内、よりの病院の正面です。西側にはふるさと自然の森が隣接し、ピッチは土手の上



大宮アルディージャ所属
川辺隆弥さん
(関山区出身)

「こんな場所があったんだ！」と初めて知る人もいないのではないでしょうか。

私が初めて芝のピッチに立ったのがこの場所でした。土のピッチと違い、ボールの弾み具合や蹴る力の加減など、扱いに戸惑ったのを覚えています。ところが、緑の鮮やかなピッチでプレーするのは最高に気持ちよく、ますますサッカーにのめり込んでしまいました。

私は、城南中学校を卒業した2004年に大宮アルディージャユースへ入団し、2007年にチームで4人目となる、ユースからトップへの昇格を果たしました。



＜みどりの絨毯＞

そして、アルディージャは2011年までに「J1リーグ優勝！」と「ユース出身からの日本代表選手輩出！」等の誓いを昨年発表しました。現在はなかなか出場機会に恵まれず、諸先輩方のプレーを学び、練習に明け暮れる毎日ですが、この誓い達成の当事者になることが、私を育ててくれた寄居町とアルディージャへの恩返しになると思い、精一杯頑張っていますので、応援よろしくお願ひします！



※グラウンドの無断使用はできません。

わが町の 達人

おはなしの達人

No.16



新井恭子さん (末野2)

我が家が寄居に引っ越して来て間もない昭和60年に、自宅の一室を「トンボ展示室兼子ども文庫」としました。

子ども文庫は、親しい友人に協力してもらい、「くわの実文庫」と名づけ、約500冊でスタートしました。本の貸し出しだけでなく、「おはな

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

し会」も行いました。

「おはなし会」というのは、昔話や本の読み聞かせです。昔は、囲炉裏端などでお年寄りが伝説や昔話を子どもたちに聞かせたものです。「おはなし会」はその現代版といってもいいでしょう。

まず、部屋を暗くしてローソクをともし、雰囲気をつくります。それから、子どもたちと目を合せながら話し始めます。次第に子どもたちは話しに引き込まれ、その目の輝きが増してくるのを見るのは大きな喜びです。話す方も、子どもたちと一緒に「おはなしの旅」を楽しみます。「おはなし会」は、小学校や図書館でも行っています。私は、「おはなし会」をとおして、子どもたちが精神的に落ち着き、想像力を高め、読書の楽しさを知ってもらいたいと思います。

本の貸し出しは、しばらくお休みしていたのですが、今年の6月から、用土の「里山ギャラリーノア」で再開

しました。

私が子どもたちに勧めたい本は、『ぐりとぐら』、『わたしのワンピース』、『わたしとあそんで』、『もりのなか』です。いずれも、長年読み継がれているものばかりです。

ちなみに、本を選ぶ際の参考としては、東京子ども図書館発行の『私たちが選んだ100選』がお勧めです。

ところで、一番好きな本は？ と聞かれたら真っ先に『ナルニア国物語』をあげます。この本は映画化されていますが、まず本を読んでみてください。本から得た感動やイメージは自分だけのものですから！

